

離乳期早期の鶏卵摂取は 鶏卵アレルギー発症を予防する

Prevention of egg allergy by early egg introduction strategy.

国立成育医療研究センターアレルギーセンター総合アレルギー科

福家 辰樹 *Tatsuki Fukuie*

国立成育医療研究センターアレルギーセンター総合アレルギー科診療部長

大矢 幸弘 *Yukihiro Ohya*

Key words : 鶏卵アレルギー, 食物アレルギー, 発症予防, 離乳食, アトピー性皮膚炎

▶ はじめに ◀

アレルギー疾患は20世紀後半から先進国で急増し、我が国では今や国民の半数近くが何らかのアレルギー疾患を経験する時代となっている。その中でも3歳までに食物アレルギー (food allergy ; FA) と診断される児は16.5%¹⁾などと報告され、特に鶏卵はその原因として最も多い食物であることが知られている。これまでも多くの発症予防に関する検討がなされているにもかかわらず、決定的な予防法が確立しない中、近年、パラダイムシフトともいえる重要な知見が次々と報告されている。つまり、長年一般的に信じられてきた発症リスク要因が、近年のエビデンス水準の高い臨床研究によって否定され、発症予防対策は180度の転換を迫られることになっている。本稿では、我々の報告を含めたFAのリスクならびに予防戦略に関する最近の報告について紹介し、先日公表された「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」についても概説を添えたい。

▶ FA発症予防の 歴史的背景 ◀

喘息やアレルギー性鼻炎で知られるように、アレルギー症状の誘発を防ぐためアレルギー曝露を避けることは重要である。かつて、アトピー性皮膚炎 (atopic dermatitis ; AD) の発症予防や治療のため、同様に「食物除去療法」の効果が検討される時代が存在した。歴史的には1980年代、AD患者では食物摂取後のIgE依存性誘発症状が起り得ることが報告²⁾され、FAとADの因果関係が盛んに議論された経緯がある。2000年に米国小児科学会はFA発症予防のため、決して高いエビデンスレベルとはいえない臨床研究を基に、乳製品は1歳まで、鶏卵は2歳まで、ピーナッツ・ナッツ類は3歳まで除去する推奨³⁾を行っているが、その後、様々な疫学調査の解析結果により離乳食を遅らせることはアレルギー疾患発症予防に有効ではないことが報告され、2008年には同じく米国小児科学会から予防に有効ではないことが報告された⁴⁾。

ただし近年まで、「離乳食の開始を遅らせることにはFA発症予防効果がない」ことを積極的に証明する臨床研究に乏しかったため、我が国を含め各国の離乳ガイドラインで「遅らせることは推